

寺報は無料、不要の方は一報下さい。

第189号

龍源寺報

2010. 9. 10

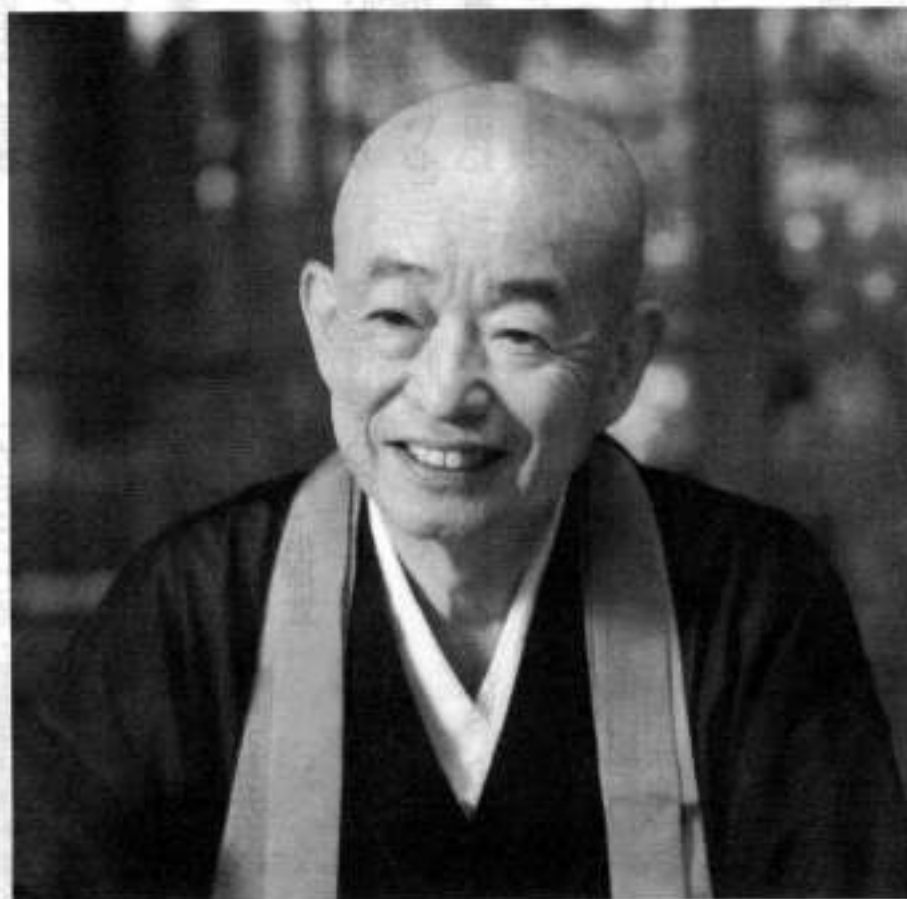
臨濟宗・妙心寺派
住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覚樹
正福寺住職 松原行樹
TEL 3451-1853
FAX 3451-6094

振込 00160-0-104918

東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryugenji.com

URL: <http://www.ryugenji.com>



追悼

「追悼文を」という声に、謹んで點頭したものの、哲明和尚の遷化を実感ができていないせいか、なかなか筆が進まない。考えてみるに、師の人となり、追悼文など許すはずがないのである。しかし、遷化後の今も、多くの誘掖を受けつつある者が、追悼集を作るなどして、師の遺徳を讃えている。きっとそれを見たら「そんな時間があったら勉強しなさい」と言うだろう。ふと、何か一言いったような顔が、私の脳裏を横切る。

哲明和尚は、東京に生まれ育ち、布教活動に専念した。IT革命や国際化など、新しく難しい問題に直面する東京で、そこに生きなければいけない人たちと社会との調和の問題に、僧侶として向かいあわなければならなかった。常に孤高を持って、何かと闘っていた。一方、家庭では優しい父であった。母や子供達においしい料理を作り、振る舞ってくれた。

(次頁につづく)

師の説法の基底には、深い仏教学と国文学の造詣があった。そして、常にフィールドワークを欠かすことはなかった。したがって、一七〇冊を超える著作や法話の数々は、単なる筆舌のしぐさではない。仏教のような宗教を説き続けると、説き尽くすことの出来ない筆舌に尽くし難いところがでてくる。そこを補う事が出来るのは、文学や音楽や美術などの芸術のなせる術だろう。

哲学で人生を考えると、どこかで挫折する人間には、ひとかけらの慈悲の心の方がありがたい。哲明和尚は、それを「かわかない心」と言った。三島の龍澤寺専門道場で、飯田蛇笏門下の中川宋淵老師に師事した。その時に老師から語られた言葉であろう「明さん、いつまでもかわかない心を説き続けるのですよ」という老師の言葉を短冊に書いて、いつも日月庵の書斎で大切にしていた。

哲明和尚に会いたい時には、師の書いた本を開こうと思っている。これからも多くの方々に師の声咳に触れていただきたいと思う。

北軽井沢・日月庵にて

龍源寺住職 松原信樹

日月庵作務の会

日時：平成二十二年一月一六日（土曜日）

一七七日（日曜日）一泊二日

日月庵に現地集合・現地解散

一六日：一〇時・星雲苑研修所集合

※昼食は持参でお願いいたします。

一七日：午前中解散

持ち物：シートとタオル二枚

所在地：群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢

日月庵・坐禅堂

電話番号：〇二七九一八四一四二〇六

道案内：

①JR 長野行新幹線・軽井沢駅下車。

約一四キロ

バス 軽井沢駅発（急行草津行、浅間牧場

・鬼押出行は浅間牧場で下車。

徒歩二〇分）

バス 草津・北軽井沢行で白樺ノ丘下車。

スグ

②JR 吾妻線・長野原下車。約一二キロ

バス 長野原駅発（北軽井沢行で北軽井沢

で下車。徒歩二〇分）

③自動車 関越自動車道・

碓氷軽井沢インターから四〇分

上記の如く、北軽井沢日月庵坐禅堂にて毎年恒例の秋の「軽井沢作務の会」を開催いたします。秋の軽井沢作務の会は、蒲團の整理・研修所の大掃除・坐禅・そして、ささやかな親睦会を行います。今年もたくさんの方が日月庵坐禅堂で研鑽されました。その研修所の冬支度を行います。坐禅の時間は、さほどませんが、坐禅初心者の方にはよろしい機会かと思えます。万障お繰り合わせの上、ご参加いただければと思います。

龍翔院観音堂療養院

銀座診療所の別院として、漢方・鍼灸の診療を龍源寺にてとり行う運びとなりました。漢方薬の御料金は長く治療を続けることができる範囲にしております。

時間：漢方・鍼灸施術とも（毎週土曜日・

午前一〇時～正午、午後一時～四時）

お問い合わせ・ご予約受付：

〇三―三五七二―三三三五（一〇時～一八時）

（銀座診療所）

※「龍源寺療養院の件」とおっしゃって下さい。

▼残暑お見舞い申し上げます。泰

柳 緑 道和尚・志ずの一周忌の法要の前

に哲明和尚の通夜・葬儀を執り行

花 紅 い、一周忌の法要後、哲明和尚の

本葬を執り行いました。今までに

経験したことのない多忙ぶりでした。七人い

た家族が二人となり、にぎやかな家でしたの

で、少し寂しい秋彼岸を迎えます。多忙の折、

総代の荒尾雅也さん、北村行夫さん、中澤周

一さんには、大変お世話になり、ありがとうございます

ございました。また、当日お手伝いいただき

た一人一人の方々にきちんとしたご挨拶がで

きなかったことをお許しください▼百力日は、

本堂が手狭なため、本葬にお呼びできなかった

た和尚様をお呼びして無事すませることがで

きました。偲ぶ会は、龍源寺で本葬を行った

ため設けませんでしたが、どうか、いつでも

龍源寺の方にお参りください▼泰道和尚の時

代から始めている境内整備を私の代でも、継

続します。お寺のうらの借地を整理し、そこ

に、将来、経蔵を建立したいと思っております

す。経蔵には、副住職時代から飯沼定子さん

と続けている『大般若経』のお写経を納めま

す。『大般若経』とは、『般若心経』の大元

の經典で、お正月の新年会に読まれます。す

で、六〇〇巻のうちの一〇〇巻が完成して

おります。泰道和尚・哲明和尚は『般若心経』

を説き尽くしてきました。そして、多くの方

々に、二人の著作や法話は愛されてきました。

二人の追善と世界平和を祈願して、経蔵を建

立するものです▼北軽井沢・日月庵坐禪堂を

四年くらい前から少しづつ修繕をし、大切に

坐禪堂と研修所を維持しています。泰道和尚

の印税により建立された日月庵は、社会還元

と現代人の心の開発のため、昭和五〇年六月

に開業されました。泰道和尚・哲明和尚の意

志を受け継ぎ、活動をより充実させたものに

したいと思っております▼十月十九日に、高

輪・東禅寺で、授戒会が開かれます。ご参

加の方は、お彼岸会の当日、お申し込みお願

い致します。本戒料一万円（一名につき）・

因縁戒料三千元（一霊につき）▼母は元気に

なるまで、もう少し時間がかかりそうです。

突然のことでしたので、仕方のないことです

ね。弟の覚樹和尚は、カリフォルニア・バー

クレイ校で教鞭をとりながら、哲明和尚が住

職を務めていた佛母寺の住職に就任しました。

行樹和尚も、戸塚にある円覚寺派正福寺の住

職として活躍中です。とくに行樹和尚には、

哲明和尚の遷化にあたり、大変お世話になり

ました。哲明和尚も喜んでいらっしゃると思

私はいとうと、遺伝のせいか、父と祖母の特

病をそのまま受け継いでいるようです。故人

に心配されていたことなので、体に気をつけ

なければなりません。まだまだ、暑い日が続

きます。くれぐれも皆様、お体ご自愛くださ

います様、お願い申し上げます。

（松原信樹・まつばらしんじゅ・昭和四六年

生まれ。立正大学仏教学部卒業後、平林寺専

門道場を経て、東洋大学大学院文学研究科仏

教学専攻博士後期課程単位取得満期退学。平

成二一年龍源寺住職就任。）